

第12回 佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会

議事概要

1. 開催日時・開催場所

日時：令和6年5月23日（木） 14:00～14:50

場所：山口河川国道事務所 第一会議室

2. 出席者

「出席者名簿」のとおり

3. 議事

- (1) 規約の改正
- (2) 佐波川水系大規模氾濫に関する減災対策協議会について
- (3) 令和5年度佐波川出水振り返り
- (4) 令和5年度の取組と令和6年度の取組予定
- (5) 今後のスケジュール（案）
- (6) その他

4. 議事概要

- ・規約の改正について事務局から説明し、各委員より承認をいただいた。

■委員からの意見等

(山口市副市長)

- ・令和5年度は、住民自らの確実な避難の促進を目的として、避難行動要支援者システムの更新作業を行った。市内全域で本格的な運用体制を整えたため、これまで以上に地域の防災活動が活発化すると期待している。
- ・防府市、山口河川国道事務所と協働し、洪水に対してリスクの高い住民との協働点検を出水期前に実施した。実際に危険箇所を関係機関で確認することで、迅速な水防活動に向けて備えることができた。

(防府市長)

- ・令和5年は関東大震災から100年の節目の事業として、防災に力を入れて取り組んだ。

- ・青少年科学館ソラールにおいて、「夏休みわくわく防災体験ツアー」を開催した。山口河川国道事務所にご協力いただき、ドローンで撮影した映像も展示し、様々な角度から住民の防災意識を高めることができた。
- ・防災教育の一環として、学校の想定浸水深を表示した「まるごとまちごとハザードマップ」を作成し、各学校へ設置した。
- ・令和6年度は、子どもたちが災害から命を守る力を身に着けるため、子ども防災士の養成に着手する予定である。
- ・緊急告知防災ラジオを75歳以上の方に無償配布しており、さらに今年度から土砂災害警戒区域及び津波災害警戒区域内の7000世帯の住民にも無償で貸与する。
- ・佐波川右岸において、佐波川右岸において、広域的な災害対応の拠点となる防災広場の整備事業に着手し、概ね2年間で完成を予定している。

(周南市副市長)

- ・令和5年度は、洪水や土砂災害のリスクが高い和田地区において、洪水浸水想定区域内及び土砂災害警戒区域内にある公共施設の移転を検討した。
- ・ウェブ版ハザードマップを防災教育で活用し、子供たち一人一人が実際に水害リスクを確認することで、より有効な防災教育を行うことができた。
- ・周南市防災ガイドブック「しゅうなん防災」を更新し、各戸配布した。住民が避難行動について日頃から考え、自ら命を守る行動を取っていただきたいという思いで、マイ・タイムラインのページを追加した。
- ・令和6年度は、地域防災マネージャーを中心に、図上訓練及び関係機関との連携強化により、災害対策を充実させる予定である。
- ・防災DXの一環として、災害対応用ドローンを導入した。災害時における被災状況等の確認に活用することで、迅速な災害対応に繋がっていききたい。

(山口県総務部理事（防災危機管理担当）)

- ・自主防災アドバイザーの養成研修を行い、防災知識の普及啓発や地域防災力の向上を図っている。
- ・各市の皆様からも話があったが、教育機関と連携した防災学習に山口県としても取り組んでいる。
- ・令和6年度は、自然災害の恐ろしさを体験できるVRゴーグルを購入したため、防災教育でも活用を予定している。

(下関地方気象台長)

- ・線状降水帯に関する情報の改善に複数年かけて取り組んでいる。
- ・令和5年度は、それまで線状降水帯の発生情報を実況で発表していたが、直前予測を導入して30分前倒しで発表できるように改善した。
- ・令和6年度は、5月28日からこれまで九州北部地方の6県を対象に発表していたが、山口県などの府県単位で発表できるように運用を変更する。より精度が高く、使いやすい情報になったと考えている。

(山口河川国道事務所長)

- ・令和5年度は、主なハード整備として、下流域の支川合流部において築堤工事を実施した。
- ・ソフト対策では、関係機関との連携強化を目的として、水防団や住民との合同巡視を行った。
- ・防府市を中心に防災士会と連携し、小学校を対象に防災教育を実施した。
- ・令和6年度も引き続き、ハード・ソフト対策を関係機関の皆様と連携しながら進めていきたい。

以上